

平成26年度  
(第2四半期)

## 広貫堂グループ IR情報

### 株式会社 広貫堂

#### ○ 事業の概況 (業績、事業運営等の概況)

(財務面)売上面では、前年同期比105.9%の実績でした。これは、売上構成金額の大きいCMO事業が前年同期比125.8%と好調な伸びによるものです。収益面では、経常利益は前年同期比 1億5600万円減少しました。これは貸倒引当金が昨年より4300万円増加、及び返品調整引当金が昨年より8000万円戻し入れが少なかったことによるものです。また呉羽工場の生産増及び償却負担が減少した反面、電力・光熱費の値上がりによる原価高、新規投資準備による販管費の増加も影響しました。

会計処理として、9月末で返品調整引当金の計上が1200万円ありました。広貫堂薬品販売及びトキワ広貫堂の貸倒引当金を1億2800万円計上しております。

(事業運営面)

CMO事業を除く本体売上3部門(営業グループ、ショップグループ、特販グループ)に関しては、各部門の具体化した施策、戦術を実行し総力を挙げて目標達成に向け推進しています。

#### ○ 課題への取組み

重点商品の一つとなっております、「透白美人」の顧客満足度を上げるべく、SNS等を用いた新たな取り組みにチャレンジしております。

海外拠点の経営体質改善に向け、さらなる協力体制を強化していきます。

#### ○ トピックス、適時情報

・7月 北陸地域のローソン147店舗にて、透白美人enrichが発売開始。

・9月 ナチュラルローソンにて透白美人enrichが発売開始。

・9月 シンガポールにて“MEDICAL FAIR ASIA 2014”に出展。

・9月 『チャリティー関東プロアマ交流会withゴルサポ』にて商品提供

#### ○ 業績の概況 (広貫堂・単体) (第2四半期、平成26年4月～平成26年9月)

(千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
売上高	5,464,802	5,747,448	5,645,376	5,980,275
経常利益	-212,498	68,027	-18,808	-175,624

### 広貫堂グループ

#### ○ 連結経営成績に関する定性的情報

連結売上高は前年同期比105.4%で推移しました。これはCMO事業の好調な伸び(前年同期比125.8%)によるものであります。またグループ会社では、売上を牽引しております日本薬剤が冷夏の影響で前年同期比98.5%、配置薬部門の不振により、薬都広貫堂が前年同期比91.2%、広貫堂薬品販売が前年同期比86.4%という結果になりました。

また、3月末の原価高の製品が4月の原価を押し上げ、売上原価は前年同期比105.8%で推移しております。販売管理費は前年同期比118.7%となりました。

経常利益は、前年同期比2億8900万円の減少となりました。この要因の一つとしては、広貫堂薬品販売の経常利益が4500万円、日本薬剤の経常利益が4200万円減少したことが挙げられます。2つ目の要因として、返品調整引当金の戻し入れが前年同期比1億1100万円減少したことが挙げられます。3つ目の要因としては、薬都広貫堂の一般債権貸倒引当金の戻し入れが前年同期比7500万円減少したことが挙げられます。

#### ○ 業績の概況 (広貫堂グループ・連結) (第2四半期、平成26年4月～平成26年9月)

(千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
売上高	6,851,668	7,372,013	6,959,246	7,334,139
経常利益	-171,599	-110,629	106,077	-183,616

平成26年度  
(第2四半期)  
グループ各社

## 広貫堂グループ IR情報

### 薬都広貫堂 株式会社

#### ○ 事業の概況 (業績、事業運営等の概況)

(財務面)

昨年度に発売した製品が売上に寄与するも、既存配置用製品の落ち込みをカバーするまでには至らず、売上高は前年同期比91.3%、目標比87.9%、経常利益はマイナスで第2四半期を終えました。

(事業運営面)

配置市場に求められる製品開発と、販売ニーズに適した製品の統廃合を推進します。  
また、懸場保全是もとより、製品とサービスを組み合わせた新たな配置ビジネスモデルの構築に取り組みます。

#### ○ トピックス、適時情報

新発売製品(7月～9月)

- ・化粧品 : どろあわりッチ
- ・化粧品 : しっとりつるつるハンドクリーム

#### ○ 業績の概況 (第2四半期、平成26年4月～平成26年9月) (千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
売上高	1,707,694	1,716,383	1,478,955	1,349,665
経常利益	12,238	-6,978	72,863	-25,706

### 日本薬剤 株式会社

#### ○ 事業の概況 (事業運営、業績等の概況)

(財務面)

夏場の天候不順などによりドリンク剤の売上高が伸びず、前年同期比98.6%となりました。経常利益は、一部営業経費計上の平準化を図ったため、上半期に一般販売管理費が増加し、前年同期比34.8%となりました。

(事業運営面)

ヘルスケア事業部および食品事業部では市場ニーズに応えた製品の開発を進めております。  
年間を通じて順次製品を上市しております。

#### ○ トピックス、適時情報

新発売(4～9月)

- 医薬品 100mLドリンク 1アイテム、葛根湯内服液 1アイテム、胃腸薬 4アイテム、  
          プラスター剤 1アイテム、ビタミンCチュアブル錠 1アイテム、
- 医薬部外品 100mLドリンク 1アイテム
- 食品 ゼリーパウチ飲料 1アイテム、蒟蒻ゼリーパウチ飲料 3アイテム、化粧品 植物石鹸 1アイテム

#### ○ 業績の概況 (第2四半期、平成26年4月～平成26年9月) (千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
売上高	2,347,213	2,389,025	2,562,402	2,526,010
経常利益	87,513	67,927	65,236	22,669

平成26年度  
(第2四半期)  
グループ各社

## 広貫堂グループ IR情報

### 広貫堂薬品販売 株式会社

#### ○ 事業の概況 (業績、事業運営等の概況)

(財務面) 第2四半期(4月～9月)販売面では売上高前年同期10億500万円に対し8億6900万円、前年同期比86.4%となりました。利益面では前年同期△6800万円に対し△1億1300万円にて推移しました。売上面での減少の要因は、①通販事業の広貫堂への移管及び一宮営業所の閉鎖にて4800万円、②消費増税にて市場の冷え込みによる健康食品販売への影響が4700万円、③人員減少等による減少が4100万円となっております。また利益面については、売上低迷が大きく影響しておりますが、経費面では9月中間決算にて一部、未払費用を計上しました。

(事業運営面)

第1四半期 5月より行っておりました「希釈飲料キャンペーン」が7月に終了し、3ヶ月で2600万円の売上になりました。10月4日～5日開催の全国所長会議にて営業所及び個人表彰を行いました。

#### ○ トピックス、適時情報

新規取扱商品として、希釈飲料から続ける商品群としてヘルシーライフスムージー、我が家の健康大豆、おなかのせんいなどのマンナンを中心としたダイエット系の商材を導入しました。

#### ○ 業績の概況 (第2四半期、平成26年4月～平成26年9月)

(千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
売上高	964,106	975,416	1,005,809	869,074
経常利益	-29,889	-111,094	-68,495	-113,807

### トキワ広貫堂 株式会社

#### ○ 事業の概況 (業績、事業運営等の概況)

(財務面)販売面においては、予算比97.4%前年同期比102.8%となりました。販売費及び一般管理費は、予算比112.3%前年同期比103.5%となりました。その主たる要因は、未払い費用のコスト計上及び貸倒引当金の基準変更によるものです。又経常利益では、前年同期△1560万円に対し△1400万円となりました。

(事業運営面)平成26年7月より新規商品としてプラセンタを取扱い拡売に努める一方、9月より葛根湯内服液、総合感冒薬、ファイトタイムの風邪3点セットの説明配置を行いました。

#### ○ トピックス、適時情報

1. 平成26年8月8日10:00よりトキワ廣貫堂第3回取締役会が開催されました。

#### ○ 業績の概況 (第2四半期、平成26年4月～平成26年9月)

(千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
売上高	145,269	109,262	108,431	111,480
経常利益	-24,376	-19,095	-15,564	-13,953